

# 戸島美喜夫の作品リスト

## List of Mikio Tojima's Works

山本 裕之

YAMAMOTO Hiroyuki

Mikio TOJIMA (1937-2020) was a composer who spent most of his life in Nagoya and left many masterpieces. His pieces have been performed mainly in the Tokai region. Some of his piano pieces, including his well-known work "Winter Rondo", have been performed and recorded in various places by famous pianists such as Yuji TAKAHASHI and Satoko INOUE. TOJIMA is also known for his contributions to the avant-garde improvisational performance group "Group MUSIC" formed together with Takehisa KOSUGI, Yasunao TONE, Mieko SHIOMI, and Shuko MIZUNO when he was at Tokyo University of the Arts. The Tokai region centered on Nagoya is home to many commissions for mandolin orchestras and choral music, and we also witness traces of his great work with local amateur performance groups. Furthermore, he was also active in many other disciplines including theater music direction and composition. Despite his tremendous contribution to a wide range of artistic genres, there are unfortunately no comprehensive studies that covered his works thoroughly. This research thus aims to provide a list of TOJIMA's compositions and an overview of his musical activities throughout his life.

### はじめに

戸島美喜夫(1937.9.10-2020.2.15)は生涯の大半を名古屋で過ごし、数々の作品を遺した作曲家である。また松阪女子短期大学、松阪大学(ともに三重県松阪市)の教授職を務めた。作品の多くが東海地方を中心に演奏されてきた。代表作といえる《冬のロンド》などいくつかのピアノ曲は、高橋悠治(1938-)や井上郷子(1958-)など著名なピアニストによって各地で演奏され、また録音もされている。戸島美喜夫の名前はそれ以外にも、東京藝術大学在学中に小杉武久(1938-2018)、刀根康尚(1935-)、塩見允枝子(1938-)、水野修孝(1934-)らと結成した前衛的な即興パフォーマンス集団「グループ・音楽」の活動によっても知られている。名古屋を中心とした東海地方ではマンドリン・オーケストラや合唱曲の委嘱が多く、地元のアマチュア演奏団体との仕事の足跡が多くみられる。さらに演劇のための付随音楽の作曲や音楽監督など、活動の範囲は幅広い。

このように各ジャンルにおいて戸島は作品を残しているが、横断的に彼の作品を網羅した資料はほとんどない。本研究報告では、戸島の作曲作品をリスト化し、生涯にわたる作曲活動を俯瞰する。

## 1. 作品の種類

### 1-1. 初期の活動

東京藝術大学の学生だった戸島美喜夫が参加していた「グループ・音楽」は、戦後の日本における最初期の即興演奏活動を行う団体であり、はじめ水野修孝と小杉武久の二名により1958年から活動が開始され、やがて塩見允枝子や柘植元一(1937-)など、将来音楽の各領域で活発な活動を展開するメンバーが加わる。しばしば戸島のキャリアの中で最初に語られるのがこのグループへの所属である。彼らは1961年9月に草月ホールにて第1回公演「即興音楽と音響オブジェのコンサート」を開催、このとき戸島が発表したテープ作品《M-C. No.1》が、おそらく彼が初めて公に発表した作品であると思われる。

「グループ・音楽」の中で戸島は中心的な役割を担った訳ではないものの、名古屋に戻ってからは<sup>1</sup>中川弘一郎(1932-)などとともに「名古屋新音楽グループ」を結成し、1964年に「音楽と不確定性のコンサート」と題した公演を行っている<sup>2</sup>。ここで配布された小冊子には「オブジェ・ソノールの認識」と題する小論を発表、「グループ・音楽」における経験を継続させるかのように即興や音響物(オブジェ・ソノール)に対する強い関心を示している。

### 1-2. 民謡に基づく作品

1967年、戸島は合唱団「名古屋ヴォーカル・クランツ」の委嘱により《五つの愛知県民謡》を作曲、発表している。学生時代から関心を持ち続けていた即興や「オブジェ・ソノール」とはまったく別の、民謡を主題にした作品であるが、戸島はプログラム・ノートで民謡に対する愛着を書き記している<sup>3</sup>。この後、愛知や海外の民謡を元にした作品、さらには様々な楽器のための派生作品を終生書き続けることになり、「民謡」は戸島作品の一つの核をなすことになる。

### 1-3. 音響作品

1970年代前半の短期間に、「オブジェ・ソノール」の概念を即興ではなく楽譜に定着させた作品群が書かれている。これらは主として《アンヴァンション・ソノール》と題された6曲と、マンドリン・オーケストラのために書かれた3曲に集約される<sup>4</sup>。

またこの頃、「エコー・マシーン」、あるいは「フィードバック・エコー」などエフェクターの使用が楽譜で指示されている作品がいくつかある。このエフェクターは、当時市場に出回っていた磁気テープによる「テープエコー」と呼ばれるものであったと考えられる<sup>5</sup>。《アンヴァンション・ソノール》2曲とマンドリン・オーケストラのための《八月のアンティフォニー》、室内楽作品《In Mode #1 ピアノ版》でその使用が指定されている。

これらの作品の演奏においては、エンジニアの矢島正浩が関わっていた。戸島は《アンヴァンション・

ソノールVI)の楽譜において「ミキサーは“チェリストを演奏する”もう一人の奏者といえる」と記していることから、「エコー・マシーン」は重要な「音響エンジニアのパート」と考えていたことが伺える<sup>6</sup>。

「テープエコー」使用の有無にかかわらず、このような「音響作品」は1977年を最後に書かれなくなった。

#### 1-4. 劇付随音楽作品

戸島の代表作とされ、各地でしばしば演奏されるピアノ曲《冬のロンド》は、1978年に音楽を担当した演劇作品『冬の棺』<sup>7</sup>の音楽をピアノソロ作品として再構成したものである。『冬の棺』以降、確認されるだけでも8曲の劇付随音楽を担当し、また作曲担当ではないものの音楽監督を行う演劇の仕事もしばしばあった。特に『冬の棺』以降の数年間には毎年演劇に関わっていた記録がある。

#### 1-5. 社会問題を扱う作品

1980年に作曲された《絵とき唄ときバナナ食民地》は、フィリピンの農民搾取を問題にした作品で、同年「水牛楽団」により初演された。水牛楽団は各国の民衆歌や抵抗歌などを積極的に演奏していたグループであり、その中心にピアニスト・作曲家の高橋悠治がいた。戸島は以前より高橋と親交があり、『水牛通信』<sup>8</sup>にも寄稿していた。1980年発行の『水牛通信』には「バナナ食民地」という絵が掲載されており<sup>9</sup>、それを元に戸島は詩と台本を作って《絵とき唄ときバナナ食民地》を作曲している<sup>10</sup>。戸島は《バナナ食民地》初演時のプログラム冊子に、いわゆる「現代音楽」に対する疑問<sup>11</sup>や、70年代後半から経験した劇付随音楽における「ウタヤコトバのつき合い」について言及しており<sup>12</sup>、この頃から前述の「音響作品」の数が急激に減るとともに、社会問題への関心が高まったことは、このような関心の移り変わりの結果であるように思われる。

その後は《フィリピンの抵抗詩》(1981)、《間奏曲—V.ハラヘ—》(1985)など、高橋悠治および『水牛通信』のスタンスに同調した作品がいくつも書かれている。

#### 1-6. ピアノ作品

前述《冬のロンド》を含む7曲あるピアノソロ作品は、高橋悠治の演奏によって商用CDに録音されている。これらの作品のうち4曲は、他の自作曲からの編曲や派生曲であることから、ピアノ曲が戸島作品の中で特に創作上の中心的なジャンルと考えるのは適切ではないだろう。しかし《冬のロンド》は幾人ものピアニストによって、それ以外の曲も主に高橋によって今日までしばしば演奏され続けており、特に首都圏で戸島作品の演奏機会が多いのはほぼピアノ曲である。

#### 1-7. 合唱作品

音響作品からピアノ曲まで、時代によって作風や関心を変える中、戸島は前述の《五つの愛知県民謡》以降生涯にわたって、コンスタントに合唱団からの委嘱によるいくつもの作品を書いている。《三つの仕事唄》(1970)、《四つの盆唄》(1971)など多くは民謡に基づく作品であり、80年代以降は《く

じゃくのくしゃみ》(1987、木島始・詩)、《いくさ三題》(1990、石黒真知子・詩)、《樹木派》(2015、高見順・詩)など現代詩を用いた作品も加わる。多くは「グリーンエコー」、「クール・ジョワイエ」、「名古屋大学男声合唱団」など名古屋の合唱団からの委嘱により書かれた。特に合唱指揮者の高須道夫(1938-2022)との交流から生まれた作品が多い。

これらの合唱作品は、一部の例外を除いて1970年代に戸島が没頭した「音響作品」のスタイルを反映していない<sup>13</sup>。一方で、拍に縛られない自由なフレーズの組み合わせを部分的に導入するなど、合唱における新しいアンサンブルの形を模索した書法もみられる。

## 1-8. その他

初期を除いて、戸島の創作活動(作、編曲)の大半は委嘱によって行われており、その作品の多くは合唱および小編成の室内楽である。室内楽で比較的多いのは、ギター、弦楽器、声楽作品である。

大編成のものは前述のマンドリン・オーケストラ4曲の他、吹奏楽作品およびフルート・オーケストラ作品が各1曲、管弦楽作品が2曲ある。管弦楽作品の1曲は1985年に書かれた津市の独唱、合唱、ピアノのための作品《今どきのおじさん》を管弦楽版に編曲し1998年に初演されたものである。もう1曲は1972年にマンドリン・オーケストラのために書かれた《Phono-Lithos》のおそらく関連作品として書かれた《もうひとつのPhono-Lithos》(1975)であり、これは規模の大きい3管編成の作品であるが、戸島作品としては珍しく演奏された記録がない<sup>14</sup>。

1976年10月15日、戸島はインドのヴィーナ<sup>15</sup>奏者であるナゲシュワラ・ラオ(1926-1993)の公演に関わる。戸島は彼の演奏に強く感銘を受け、翌年インドに赴きラオと親交を深め、彼からヴィーナを学んだようである。戸島にとってこの体験は、自らの作品の方向性を大きく変える契機の一つとなった<sup>16</sup>。

## 2. 作品リストの作成

冒頭に述べたように、本稿の目的は戸島の作品リストを作成することである。戸島作品として存在している、あるいは存在したはずである(形跡がある)ものを列挙するために、「楽譜」「録音」「各種資料」を可能な限り確認し、作品リストとして構成する。

### 2-1. 楽譜

商用の楽譜として発行された戸島作品の楽譜は《アンヴァンシオン・ソノールVI》のみである<sup>17</sup>。その他、いくつかの作品は松阪大学紀要(1984,1989,1990,1991)に収録、自費出版として「戸島美喜夫作品抄」、「冬の Rond 戸島美喜夫ピアノ曲集」、名古屋青年合唱団名義の「カンタータ『鳥よ碧い夏にはばたけ』」がある。また1980年10月に開催された戸島美喜夫作品展「コンサート この時この唄」のプログラム冊子には、《絵とき唄ときバナナ食民地》を構成する単旋律の「うた」が全曲掲載されており、うち3曲は同年の『水牛通信』にも掲載されている<sup>18</sup>。

その他、自宅には多くの手稿譜、およびそのコピーが残されている。

## 2-2. 録音

商用としてリリースされた録音が数点ある。『冬のロンド 戸島美喜夫ピアノ曲集』(ALM-Records, ALCD-77)には高橋悠治がピアノ曲を7点収録している<sup>19</sup>。その他、録音がリリースされた記録のあるものとして、『アンヴァンシオン・ソノールⅠ』(ナゴヤ・ディスクからレコード化、型番不明)、《柿むき》(女声合唱版)(Giovanni, GVCS 31102)がある<sup>20</sup>。

高橋悠治によるピアノ曲やクール・ジョワイエなどが演奏した合唱作品などは、近年インターネット上のYouTubeにアップロードされている。

自宅には、カセットテープにいくつかの作品音源が保管されている。

## 2-3. 各種資料

### 2-3-1. 既存の作品リスト

以下の資料には、本人が関わったとみられる作品のリストがある。

『INVENTION SONORE CONCERT 戸島美喜夫作品展』の公演プログラム冊子(1976年11月29日)には、「戸島美喜夫 作品年譜・音楽の仕事」に略歴とともに主要作品が年代別に掲載されている(吉川和夫作成)。

『松阪大学紀要第22巻第1号(2004)』は戸島の退職記念号にあたり、「主要作曲作品」がジャンル別に掲載されている。

サントリー音楽財団(現・サントリー芸術財団)は、1980年から2015年の間、2年おきに『日本の作曲家の作品』という冊子を発行している。これは当該年に国内外で初演された日本人作曲家による作品をまとめた記録集である。作曲家自らの申告により作品情報が集められているため、作曲家が申告しない限り原則として掲載されない。この冊子に戸島作品がいくつか掲載されているが、数は多くない。

### 2-3-2. チラシ・プログラム

戸島の自宅には、かなり良好な状態でコンサートのチラシやプログラム冊子が残されている。これらから得られる膨大な情報は、本作品リストの中核をなす。

プログラム冊子には、作曲者の紹介の中に簡単な略歴や主要な作品情報が含まれている場合があり、本作品リストを補強する情報となる。

### 2-3-3. 『日本の電子音楽』

日本の電子音楽に関する著書を多く著している川崎弘二(1970-)は、『日本の電子音楽 増補改訂版』(愛育者、2009)および『日本の電子音楽 続 インタビュー編』(engine books、2013)にて戸島美喜夫に触れている。特に後者には戸島美喜夫への長いインタビューが掲載されており、戸島が初期に行っていた電子音響を伴うパフォーマンスのみならず、インタビューを行った2009年までの活動をほぼ全ジャンルにわたって聞き取っている。戸島の活動を網羅的に俯瞰できる既存の資料としては、ほぼ唯一のものである。

## 2-3-4.ウェブ記録

インターネット上には戸島の作品に関する記録が散発的にみられる。特に合唱、マンドリン・オーケストラなどは、当該団体が自らの公演記録をサイトに残している場合があり、チラシやプログラムなどの現物と照らし合わせ、補強資料として参照できる。

## 2-3-5.その他

日本音楽著作権協会 (JASRAC) のウェブサイトには作品データベース検索サービスがあり、戸島作品が58曲登録されている。特定の出版社やマネジメントとのつき合いがなかった戸島の場合、これらの情報は本人によって申告されたと考えられるため、信憑性が高い。

## 2-4. 作品リスト作成上の問題

### 2-4-1.派生作品

戸島作品を整理する上で大きな問題となるのは、派生作品の存在である。これらはタイトルが同じだが異なった編成で書かれているものであり、単なる書き写し(トランスクリプション)ではなく、基本的な旋律は同じであっても導入部分や伴奏など旋律以外の要素に大きな違いがあることが珍しくない。したがって、これらは別の作品と判断するのが妥当と考えられる。このような派生作品は民謡を題材にしたものに多いが、1980年に入ると抵抗歌なども加わる。

派生作品を持つものは、演奏記録のあるものだけでも22タイトルある<sup>21</sup>。単に別の編成や楽器で書かれたものもあれば、異なる曲集(特に合唱曲)の中に同じタイトルの構成曲として組み込まれているものもある。ただし戸島と交流のあった作曲家の野村誠(1968-)によると、新たな編成(楽器)で演奏される際に、戸島が演奏家に原曲の楽譜を渡し、それで演奏するよう指示していた場合もあるという<sup>22</sup>。この場合は戸島が新たな楽譜を作っていないため、「派生作品」とは呼べないだろう。

### 2-4-2.情報の曖昧性

前述「各種資料」のうち、本人が関わったとみられる作品リストや、プログラム冊子に記載された補助的な情報(略歴等に記載されている作品情報)のうち、特に作曲年について、チラシなど確度の高い情報と食い違うことがある<sup>23</sup>。また初演日は確定できるが作品の完成年がいつなのかを特定する方法がない場合もある。プログラム冊子に書かれている本人の記述を見ると、戸島は初演に際して余裕を持って作品を仕上げることはあまりないことが伺える。したがって、初演日が年初でない場合は原則として同年の作曲と判断した。

## 3. 作品リスト

現時点で収集できる上記の資料を元に、戸島美喜夫の遺した作品のリストを作成した。前述のように楽譜や録音が確認されてなくても、演奏された記録があるというだけでここに掲載したのは、将来的に楽譜などの物証が発見される可能性が少なくないこと、また存在されたと強く見込まれることが、将来的な戸島研究の参考になり得ると考えたためである。なお即興演奏は録音がなければ当然演奏記録でしか確認しようがないが、戸島の初期の活動において特に重要な事象であるため、リストの

末尾に掲載してある。

本作品リストは、【作曲作品】【編曲作品】【劇付随音楽作品】【即興演奏等】別に作曲年順に作成した。作曲作品のうち作曲年が不明なものは、その項の最後にまとめて記載した。

楽器編成中、「feedback echo」と「echo machine」は同等のものと思われるが、作曲者の表記に従って記述した。

[リストの見方] 作品タイトル (洋題およびローマ字表記がわかるものは併記した) ①編成 (カッコ内数字は人数) ②作曲年 ③作詞者、および楽章や構成曲のタイトル ④初演日 (yyyy.mm.dd)、初演者 (判明しているもののみ) ⑤初演公演名、会場、都市 (判明しているもののみ) ⑥楽譜所在 ⑦備考。

「⑥楽譜所在」の表す記号はつぎの通り。A: 自宅蔵、B: 「冬のロンド 戸島美喜夫ピアノ曲集」(自費出版)、C: 「戸島美喜夫作品抄」(自費出版)、D: 松阪大学紀要 (号数等)、E: その他 (明記)

### 戸島美喜夫作品リスト (山本裕之作成)

#### 【作曲作品】

**M-C. No.1** ①tape ②1961 ④1961.09.15、グループ・音楽第1回公演 ⑤〈グループ・音楽〉第1回公演、草月会館ホール、東京

**サエタ Saeta** ①guitar, cello (?) ②1964? ④1964.01.28 ⑤名古屋新音楽グループ第一回公演、ヤマハビル4階スタジオ、名古屋 ⑦即興作品の可能性あり。

**強度のために** ②1964? ④1964.01.28 ⑤名古屋新音楽グループ第一回公演、ヤマハビル4階スタジオ、名古屋 ⑦即興作品の可能性あり。

**五つの愛知県民謡** ①mixed vocals (7), chamber orchestra ②1967 ③1. うすひき唄; 2. 茶つみ歌; 3. 田植唄; 4. 花まつり; 5. 十六 ④1967.01.14、名古屋ヴォーカル・クランツ ⑤第4回名古屋ヴォーカル・クランツ定期演奏会、中電ホール、名古屋

**バリトンとチェロのヴォカリーズI** ①bariton, cello ②1968 ④洞谷吉男 (bar)、星野明道 (vc) ⑤愛知文化講堂、名古屋 ⑦作曲年が1969の情報もあり

**ヴォカリーズII** ②1968 ⑦1976年の段階で未発表。

**今私は……** ①female chorus, piano ②1970? ③詩: 名古屋市立保育短期大学合唱団、願い; 思い (私には……); 生きる (私は海が好き……); 合唱 ④1971.01.10、名古屋市立保育短期大学合唱団、乙部 夫宇子 (cond)、石川久美子 (pno) ⑤第13回発表会、愛知文化講堂、名古屋 ⑥A (〈私は海が好き……〉というタイトルの曲のみ)

**三つの仕事唄** ①mixed chorus ②1970 ③愛知県北設楽民謡/柿むき唄; もみひき唄; 地つき唄 ④1970.10.16、小沢武夫 (cond)、グリーン・エコー ⑤グリーン・エコー第14回演奏会、愛知文化講堂、名古屋 ⑥A、C (ともに〈柿むき唄〉のみ) ⑦別個に書かれた三曲が曲集としてまとめられた。

**アンヴァンシオン・ソノール I Invention Sonore I** ①mandolin orchestra, percussion ②1971 ④1971.08.29、磯村則雄 (cond)、木村裕 (cond)、愛知学院大学、愛知県立大学、愛知淑徳短期大学、東海学園女子短期大学 (mand-orch) ⑤愛知県立大学、愛知学院大学、淑徳短期大学、東海学園女子短期大学 マンドリン・クラブ合同演奏会、愛知県勤労会館、名古屋 ⑥A ⑦初演時プログラムにはタイトルに「連響」と併記。

**四つの盆唄** ①mixed chorus ②1971 ③愛知県北設楽の民謡／やんせ；せっせ；高い山；じんく ④1971.10.05、小沢武夫 (cond)、グリーン・エコー ⑤グリーン・エコー第16回演奏会、愛知文化講堂、名古屋

**アンヴァンシオン・ソノール II Invention Sonore II** ①string quartet ②1972 ④1972.02.25、名古屋弦楽四重奏団 (近藤富美子、山内早苗 (vn)、本多忠三 (va)、星野明道 (vc)) ⑤名古屋弦楽四重奏団第2回演奏会、中電ホール、名古屋 ⑥A

**アンヴァンシオン・ソノール III Invention Sonore III** ①wind orchestra ②1972 ④1972.11.17、辻井市太郎 (cond)、大阪市音楽団 ⑤日独現代音楽の夕'72、毎日ホール、大阪 ⑥A

**Phono-Lithos** ①mandolin orchestra, percussion ②1972 ④1972.08.28、大場弘子 (cond)、岐阜薬科大学 (mand-orch)、竹内恭子 (cond)、淑徳短期大学 (mand-orch)、山下順子 (cond)、岐阜女子短期大学 (mand-orch)、早川明良 (cond)、名古屋市立大学 (mand-orch) ⑤東海学生マンドリン連盟第9回合同演奏会、愛知県勤労会館、名古屋 ⑥A

**アンヴァンシオン・ソノール IV「リディアの予感」Invention Sonore IV “Pressentiment de Lydia”** ①violin, piano ②1973 ④1973.01.25、山本和 (vn)、戸島美喜夫 (pno) ⑤ミュージック・コミュニケーションNo.1、名演小劇場、名古屋 ⑥A

**八月のアンティフォニー** ①mandolin orchestra, percussion, male chorus, feedback echo ②1973 ④1973.11.17、戸島美喜夫 (cond)、荒川修次、柴田康彦、社本文恵、古瀬比砂子 (perc)、矢島正浩 (elec)、チルコロ・マンドリニスティコロ・ナゴヤ、マンドリンクラブわらの会、社本文恵、荒川修次、柴田泰彦、古瀬比砂子 (perc)、名古屋音楽芸術協会 (cho)、幸声会 (cho) ⑤昭和四八年度名古屋市民芸術祭 マンドリン合奏の夕べ、愛知勤労会館講堂、名古屋 ⑥A

**アンヴァンシオン・ソノール V Invention Sonore V** ①piano, 2 percussions, feedback echo ②1974 ④1974.05.13、佐々木惇利子 (pno)、荒川修次、古橋比砂子 (perc)、矢島正浩 (elec) ⑤ミュージック・コミュニケーション No.3 名古屋現代音楽祭第1夜、名演小劇場、名古屋 ⑥A

**アンヴァンシオン・ソノール VI Invention Sonore VI** ①cello, echo machine ②1974 ④1974.05.20、杉浦薫 (vc)、矢島正浩 (elec) ⑤杉浦薫チェロ演奏会、名演小劇場、名古屋 ⑥A、E (『音楽芸術』第33巻第8号付録、音楽之友社、1975)

**三つの仕事唄** ①male chorus ②1974 ③愛知県民謡／柿むき；もみひき節；地つき ④1974.11.18、刑部健治 (cond)、名古屋大学男声合唱団 ⑤3大学男声合唱団 Joint Concert、愛知県勤労会館、名古屋 ⑦1970作曲の同名曲 (混声合唱) を男声合唱に編曲。1985年には《北設楽地方の3つの仕事唄》というタイトルで発表。



**SOUND OF** ①performers ②1975 ④1975.11.18、十数名の演奏者 ⑤今日の音楽 現代における音空間のひろがり 市民芸術劇場'75、名古屋市民会館中ホール、名古屋 ⑦演奏者に「メモみたいな楽譜」を渡すシアターピース的な作品。

**for "Sound Of"** ①不明(不特定楽器?) ②1975頃? ⑥A

**もうひとつのPhono-Lithos** ①orchestra(3管編成) ②1975 ⑥A ⑦未発表。

**In Mode** ①lute or prepared-piano with 3 tam-tams ②1976 ④1976.06.14、酒井康雄(lute)、荒川修次(tom.tom) ⑤ジャパニーズ・ラプソディ1976フォー・ザ・ギター、テイジンホール、大阪 ⑦編成の「タムタム」は(膜質打楽器である)トムトムのことと思われる。

**インターリュード** ①cello ②1976 ④1976.06.29、杉浦薫(vc) ⑤杉浦薫チェロ演奏会、名演小劇場、名古屋

**In Mode #1 ピアノ版** ①prepared-piano, 3 tam-tams & echo machine ②1976 ④1976.11.29、戸島美喜夫(pno)、荒川修次(tam-tam) ⑤INVENTION SONORE 戸島美喜夫作品展CONCERT、名演小劇場、名古屋 ⑥A ⑦編成の「タムタム」は(膜質打楽器である)トムトムのことと思われる。

**沖揚げ音頭** ①male chorus ②1977? ③北海道民謡/船漕ぎ音頭; 網起し音頭; 切り声音頭; 沖揚げ音頭(ソーラン節); 子落し音頭(いやさか音頭); 船漕ぎ音頭 ④1978.01.15、谷泰弘(cond)、名古屋大学男声合唱団 ⑤名古屋大学男声合唱団第24回定期演奏会、愛知県勤労会館、名古屋

**冬のロンド Winter Rondo** ①piano ②1979 ④1979.07.03、平尾はるな ⑤ピアノ現代作品の現在、イイノホール、東京 ⑥B、C ⑦1977年作曲の劇付随音楽『冬の棺』からの派生作品。

**北設の唄** ①soprano (2), tenor, bariton, flute (2), percussion, piano (2), cello ②1979 ③うすひき唄; 柿むき唄; 茶つみ歌; 田植唄; 花まつり唄 ④1979.11.16、戸島美喜夫(cond)、矢野洵子、後藤むつみ(sop)、玉越守夫(ten)、碓井士郎(bar)、永長次郎、能慶子(fl)、遠藤章(perc)、森山真由美、内田光香(pno)、林良一(vc) ⑤松阪女子短期大学音楽科第10回リサイタル「日本の作曲—過去と現在」、三重県文化会館、津 ⑥A(柿むきのみ) ⑦1967年作曲の「五つの愛知県民謡」の改作。ただし一部の曲が異なる。

**松阪市立東部中学校校歌** ②1979 ⑥A

**ヴェトナムの子守歌** ①guitar ②1979 ④1979.12.19、酒井康雄 ⑤酒井康雄ギター演奏会、愛知文化講堂、名古屋 ⑦1980年改訂版あり(楽譜は自宅蔵)。

**ヴェトナムの子守歌** ①piano ②1980 ④1980.10.11、高橋悠治 ⑤コンサート この時この唄、名古屋市民会館中ホール、名古屋 ⑥B、C ⑦1979年作曲の同名曲(ギター作品)からの編曲。

**歌物語「絵とき唄ときバナナ食民地」** ①song, quena, harmonium, taishogoto, koshidaiko ②1980 ③詩: 戸島美喜夫、バナナ・ソング; ホセのパラード; 農薬ソング; 生活のうた; 海を渡れば16倍; 祖国 Ang Bayan Ko ④1980.10.11、水牛楽団 ⑤コンサート この時この唄、名古屋市民会館中ホール、名古屋 ⑥E(「コンサート この時この唄」(1980年10月11日)プログラム冊子)

**柿むき(愛知県北設楽地方民謡)** ①piano ②1980 ④1980.10.11、高橋悠治 ⑤コンサート この時この唄、名古屋市民会館中ホール、名古屋 ⑥A、B ⑦1970年作曲《三つの仕事唄》〈柿むき唄〉からの改作

**もどりうた** ①male chorus ②1981/82 ③愛知県民謡／1. 馬方節；2. 盆ならさん；3. きねこさ祭；4. 稲刈歌；5. 御殿万歳 ④1981.11.06、高須道夫 (cond)、ケール・ジョワイエ、(改訂初演) 1982.07.10、同 ⑤高須道夫指揮による「合唱のタベ\*\*\*地元作曲家の委嘱作品を中心に\*\*\*」(市民芸術劇場 '81)、名古屋市民会館中ホール、名古屋 ⑥C(〈きねこさ祭り〉のみ)、D(第2号1984, pp.33-55)

**きみはトタン屋根の下ではなれ星を数える人ではない** ①tenor, piano ②1981 ③詩：エドガル・マラナン ④1981.11.13、玉越守夫 (ten)、杉浦日出夫 (pno) ⑤松阪女子短期大学第12回音楽科リサイタル、三重県文化会館ホール、津 ⑦同年作曲の《つばめ》とセットで発表。「チリでとらわれた女性」という詩と3曲セットの構想があった。

**つばめ** ①tenor, piano ②1981 ③詩：エドガル・マラナン ④1981.11.13、玉越守夫 (ten)、杉浦日出夫 (pno) ⑤松阪女子短期大学第12回音楽科リサイタル、三重県文化会館ホール、津 ⑦同年作曲の《きみはトタン屋根の下ではなれ星を数える人ではない》とセットで発表。「チリでとらわれた女性」という詩と3曲セットの構想があった。

**東浦町立石浜西小学校校歌** ②1981 ③詩：鈴木孝 ⑥A

**フィリピンの抵抗詩** ①tenor, piano ②1981

**鳥のうた (カタルニア民謡)** ①piano ②1982 ⑥B

**柿むき** ①guitar ②1983 ⑥A ⑦1980年作曲の同名曲(ピアノ作品)からの改作。

**桑摘む娘** ①vocal, piano ②1983? ③詩：呉泰錫、尹学準(訳) ⑥C ⑦劇付随音楽『オモニ』からの派生作品。

**つばめ** ①guitar (+?) ②1983? ④1983.07.16、浜田雅明 (guit) ⑤浜田雅明ギター・コンサート Live at Yucca II、エイシェント・ユッカ今池、名古屋 ⑦1981年作曲の同名曲(テノール・ピアノ)からの編曲と思われる。

**鶺鴒の橋 Kasasagi no Hashi** ①guitar, mandolin orchestra ②1984 ④1984.11.09、戸島美喜夫 (cond)、名古屋マンドリン合奏団 ⑤マンドリン音楽のタベー地元作曲家の作品と、民族音楽に素材を求めて、名古屋市民会館中ホール、名古屋 ⑥A

**間奏曲—V.ハラヘ—** ①piano ②1985 ⑥B

**組曲「今どきのおじさん」** ①bariton, children chorus, piano ②1985 ③詩：井土悦子 ④1985.04.14、津児童合唱団 ⑤詩：井土悦子、1985.04.14津児童合唱団 ⑥第17回津児童合唱団定期演奏会、三重県文化会館、津

**柿むき** ①bariton, tenor, piano ②1985? ③愛知県北設楽民謡 ④1985.10.22、友竹正則 (bariton)、岡田邦義 (ten)、戸島美喜夫 (pno) ⑤なつかしいうたのふし、岐阜県婦人会館雲竜ホール ⑥A ⑦1970年作曲《三つの仕事唄》内の同名曲の関連作品。

**御殿万歳** ①bariton, tenor, piano (?) ②1985? ③愛知県民謡 ④1985.10.22、友竹正則 (bar)、岡田邦義 (ten)、戸島美喜夫 (pno)? ⑤なつかしいうたのふし、岐阜県婦人会館雲竜ホール ⑦1981年作曲《もどりうた》(男声合唱)内の同名曲の関連作品と考えられる。

**桑摘む娘 A Girl Picking Mulberry** ①harp ensemble ②1986 ⑥A、D(第6号1989, pp.43-54)

**息づかいの礼拝式** Liturgie vom Hauch ①bariton, flute, cello, piano ②1987 ③詩：ブレヒト、長谷川四郎訳 ④1987.08.12、鳴海卓 (bar)、松田興平 (fl)、吉田顯 (vc)、大西恵子 (pno) ⑤らすちおん反核コンサート「ヒロシマの向こう側」、名古屋YWCAホール、名古屋

**くじゃくのくしゃみ** ①mixed chorus ②1987 ③詩：木島始 ④1987.07.18、清田健一 (cond)、グリーン・エコー ⑤「反核・日本の音楽家たち」名古屋コンサートNo.5、愛知文化講堂、名古屋 ⑥C

**どれだけ歌いつづけたら** ①children or female chorus, piano ②1987 ③詩：村田ちさ子 ④1988.04.17、川合俊平 (cond)、今村弘美 (pno)、津児童合唱団とその卒団生 ⑤創立20周年記念・津児童合唱団定期演奏会、三重県文化会館、津

**ビオラ・ソナタ「三つの声」 Viola Sonata “Three Voices”** ①viola ②1987 ④1987.10.08、大口恵美子 ⑤第11回綾の会コンサート—地元ゆかりの作曲家の作品による夕べPart I—、中電ホール、名古屋 ⑥C (<南の島からの>のみ)

**じんく** ①male chorus ②1987? ③愛知県北設楽の民謡 ④1987.01.15、名古屋大学男声合唱団 ⑤愛知県勤労会館大ホール、名古屋 ⑦1971年作曲《四つの盆唄》(混声合唱)からの男声合唱用編曲と思われる。

**鳥よ碧い夏にはばたけ Tori yo, Aoi Natsu ni Habatake** ①soprano, alto, bariton, sanshin (shamisen), piano ②1988? ③詩：石黒真知子 ④1989.01.14 ⑤日本の歌声運動40周年記念 金田・原田・藤田ジョイントコンサート「鳥よ碧い夏にはばたけ」、守口エナジーホール、守口 ⑦2000年作曲のカンタータ「鳥よ碧い夏にはばたけ」の元となった作品。

**桑摘む娘 A Girl Picking Mulberry** ①piano ②1988 ④1988.09.22、麦淑子 (pno) ⑤第9回NJコンサート、名古屋市芸術創造センター、名古屋 ⑥B、D (6号 1989, pp.43-54) ⑦1986年作曲の同名曲 (ハーブアンサンブル作品)からの改作。

**うりずん** ①irish harp (20) ②1989 ④1989.11.04、岡島多恵子 (cond)、金城学院ハーブアンサンブル ⑤金城学院100周年記念コンサート金城学院ハーブアンサンブル、金城学院栄光館、名古屋 ⑥A

**いくさ三題** ①male chorus ②1990 ③詩：石黒真知子、1. 遊獵—しぬびごと (詠)；2. 王ありてこがねの檻に囚われ；3. ころき翼ひろげ降りたつものたち ④1990.09.15、高須道夫 (cond)、クール・ジョワイエ ⑤クール・ジョワイエ第7回演奏会、愛知文化講堂、名古屋 ⑥C、D (第9号 1991, pp.53-67) (以上、<遊獵—しぬびごと (詠)>のみ)、D (第8号 1990, pp.17-37) (<<ころき翼ひろげ降りたつものたち>>のみ)

**プロローグ** ①bariton, piano ②1997以前 ③詩：石黒真知子 ⑥C ⑦2000年作曲のカンタータ「鳥よ碧い夏にはばたけ」の関連作品と思われる。

**虫の音よ** ①vocal, piano ②1997? ③詩：栗木英章 ⑥C ⑦音楽劇「地蔵ものがたり」からの抜粋と思われる。

**組曲「今どきのおじさん」** ①orchestra (1管編成), bariton, children chorus ②1998 ③詩：井土えつ子 / プロローグ (学校帰り)；なんや なんや；あそぼに あそべんやん；おじさんのララバイ；古いおはなし (阿漕)；エピローグ (ええやんか) ④1998.11.26、戸島美喜夫 (cond)、友竹正則 (bar)、郷土をたたえる音楽会合唱団、三重フィルハーモニー交響楽団 ⑤郷土をたたえる音楽会、三重県文化会館、津 ⑦1985年作曲の同名曲 (バリトン、童声合唱、ピアノ)を改作、編曲。

**カンタータ「鳥よ碧い夏にはばたけ」** ①mixed chorus, sanshin, piano ②2000 ③詩：石黒真知子／ブ  
ロローグ；あたしは忘れない；くろき翼ひろげ降りたつものたち；ちいさな鳥よ；白い旗をかかげ；  
うりずん ④2000.03、戸島美喜夫 (cond)、広野和子 (pno)、六柳庵やその (shamisen)、名古屋青年合  
唱団 ⑤名古屋青年合唱団 春をよぶコンサート、名古屋芸術創造センター、名古屋 ⑥E (「カンタータ  
鳥よ碧い夏にはばたけ」名古屋青年合唱団) ⑦元は1989年発表の声楽を伴う同名室内楽作品。〈くろ  
き翼ひろげ降りたつものたち〉は1990年作曲の《いくさ三題》にも同名の曲があり、テキストも共通  
しているが、内容はかなり異なる。

**盆ならさまよ Bonnarasamayo** ①violin, piano ②2004 ⑥A

**柿むき** ①female chorus ②2008 ④2009.09.17、高須道夫 (cond)、SKOLION ⑤SKOLION コンサート  
「美しい女声合唱の世界」～邦人作曲家による～、サラマンカホール(?)、岐阜(?) ⑥A ⑦1970年作  
曲《三つの仕事唄》(混声合唱)内の同名曲を女声合唱に編曲。

**ほらねろねんねろ** ①female vocal ensemble ②2011 ③福島県子守歌

**きみはトタン屋根の下ではなれ星を数える人ではない** ①male chorus, more than 3 players  
(different family) ②2015 ③詩：エドガル・マラナン(高橋悠治訳) ④2015.01.18、高須道夫 (cond)  
クール・ジョワイエ、戸島さや野 (vn)、笹久保伸 (guit)、青木大輔 (zampoña) ⑤クール・ジョワイエ  
演奏会2015、三井住友海上しらかわホール、名古屋 ⑦1981年作曲の同名作品あり。

**樹木派** ①male chorus, more than 3 players (different family) ②2015 ③詩：高見順／樹木(一)；樹  
木(二)；樹木(四)；深夜の樹木；天の足音；天の椅子；光(一)；光(四)；光(六)；葡萄に種子がある  
やうに(以上曲順未確認) ④2015.01.18、高須道夫 (cond) クール・ジョワイエ、戸島さや野 (vn)、笹  
久保伸 (guit)、青木大輔 (zampoña) ⑤クール・ジョワイエ演奏会2015—2つの委嘱・初演—、三井住  
友海上しらかわホール、名古屋

**桑摘む娘** ①female voices (2), piano ②2015 ⑥A ⑦1983年(?)作曲の同名曲からの編曲と思われる。

**おっくんさん** ①female vocal ensemble ②2016 ③愛知わらべうた ④2016.09.28、アンサンブル・サ  
モスココス ⑤アンサンブル・サモスココス2016クセナキス「ヘレネ」をめぐって、Hakuju Hall、東京  
**ソナタ「三つの声」** ①violin ②2010 ③1. 遠くからの；2. 南の島からの；3. まわる風の ④  
2010.12.10、戸島さや野 (vn) ⑤平河町MUSICS | 第6回戸島さや野 ヴァイオリン・ソロモノクロー  
ムのなかに無数の色を、ロゴバ、東京 ⑥A ⑦1987作曲の同名曲(ヴァイオリン)からの編曲。

**小変奏曲「機織りうた」** ①piano ②2006/2007 ⑥B

**風の実** ①声楽曲(編成詳細不明) ②2012以前? ③詩：石黒真知子

**木のみちしるべ—マリンバのための小品五題— The Tree Signpost** ①marimba ②2012-2013 ③木  
を植えよう；ひざをまげて；木のみちしるべ；うりずん；風の実II、Let's Plants (Tanzanian Children's  
Song)；Bend Your Knees (Turkish Children's Song)；The Tree Signpost (Norwegian Traditional  
Melody)；URIZUN；Wind's Seeds II ④2013.03.09 中川よりか ⑤LeRêve アンサンブルの楽しみ  
2013、桑名市民会館小ホール・桑名 ⑥A

- 雉本博士の歌** ①声楽曲(編成詳細不明) ②不明 ③詩:栗木英章  
**小作人の歌Ⅰ** ①声楽曲(編成詳細不明) ②不明 ③詩:栗木英章  
**小作人の歌Ⅱ** ①声楽曲(編成詳細不明) ②不明 ③詩:栗木英章  
**なにご** ①声楽曲(編成詳細不明) ②不明 ③詩:木島始  
**ぬいぐるみのクマさん** ①声楽曲(編成詳細不明) ②不明 ③詩:石黒真知子  
**みどりの歌** ①声楽曲(編成詳細不明) ②不明 ③詩:栗木英章  
**胸いっぱい** ①声楽曲(編成詳細不明) ②不明 ③詩:石黒真知子  
**名古屋市立名東高等学校校歌** ②不明 ③詩:友竹辰

### 【編曲作品】

**失われた言葉 禁じられた歌** ①male chorus, violin, guitar, banjo, accordion, piano ②1982 ③ポーランドの民衆歌: 神よポーランドを; 22番目の要求項目; グダンスクの“じじい”; ゴルゴダ; 9月1日; しだれ柳; モンテカシノの紅い芥子; 壁; ヤネク・ヴィシニェフスキのバラード; 娘にあたえる歌; 明日はワルシャワ ④1983.01.15、名古屋大学男声合唱団、柴田陽子(vn)、柴田勇治(cl)、佐藤栄一(acc)、浜田雅明(banjo, guit)、城所由美子(pno) ⑤名古屋大学男声合唱団第29回定期演奏会、愛知県勤労会館・名古屋 ⑦既存の様々な曲をステージ構成としてまとめたもの。

**CANCION A VICTOR** ①male chorus, piano ②1984 ③広い道を通して; アマンダの思い出; 役立たず; 亡霊; 平和に生きる権利; ビクトル・ハラへの歌(アマンダ~平和はV.ハラ作曲) ④1984.01.15、名古屋大学男声合唱団、三好誠治(cond)、鈴木なつみ(pno) ⑤名古屋大学男声合唱団第30回定期演奏会、愛知県勤労会館、名古屋

「**新しい歌**」から **Atarashii Uta kara** ①flute orchestra ②1984 ③前奏曲; アマンダの思い出; 広い道を通して ④1984.03.27、広上淳一(cond) ⑤第6回日本フルートフェスティバルin名古屋、名古屋市民会館中ホール、名古屋 ⑥A ⑦同年編曲の《CANCION A VICTOR》のピアノパートを再編曲した作品。

**いろはのうた** ①female chorus ②1984 ④1984.11.29、村尾護郎(cond)、松阪女子短期大学音楽科 ⑤松阪女子短期大学音楽科創設15周年記念公演「日本の作曲—過去と現在PartIII」、愛知県中小企業センターホール、名古屋 ⑦原曲は信時潔1929年作品。

**平和に生きる権利** ①tenor, piano ②1985? ③詩曲: ヴィクトル・ハラ ④1985.10.22、岡田邦義(tenor)、戸島美喜夫(pno) ⑤なつかしいうたのふし、岐阜県婦人会館雲竜ホール

**アマンダの思い出** ①tenor, piano ②1985? ③詩曲: ヴィクトル・ハラ ④1985.10.22、岡田邦義(tenor)、戸島美喜夫(pno) ⑤なつかしいうたのふし、岐阜県婦人会館雲竜ホール

**ビクトル・ハラへの唄** ①tenor, piano ②1985? ③詩曲: コウロン&サリナス ④1985.10.22、岡田邦義(tenor)、戸島美喜夫(pno) ⑤なつかしいうたのふし、岐阜県婦人会館雲竜ホール

**広い道を通して** ①tenor, piano ②1985? ③詩: ハラ、曲: レッカ ④1985.10.22、岡田邦義(tenor)、戸島美喜夫(pno) ⑤なつかしいうたのふし、岐阜県婦人会館雲竜ホール

**組曲「ねがい」** ①mixed chorus, recorder, piano ②1996 ⑦林学作曲作品の編曲と思われる。

**竹田の子守歌** ①lyre (1?2?3?) ②2014? ④2014.04.08、平岩和子? ⑤ライアーと朗読の贈り物、HITOMIホール・名古屋

### 【劇付随音楽作品】

**冬の棺** ①flute, guitar, cello, percussion ②1977 ③作・台本：水上勉、演出：木村光一 ④1977.07.15  
⑤冬の棺—古河力作の生涯—、名演小劇場、名古屋

**像列車がやってくる** ①wind quintet, percussion ②1978 ③作・台本：小出隆、演出：木崎裕次 ⑦楽器編成の詳細不明。

**喪失速度** ①guitar, string quartet ②1979 ③作：鈴木正人、台本・演出：ふじたあさや ④1979.03.23、稲庭達、竹本はるる (vn)、水山宗己 (va)、杉浦薫 (vc)、酒井康雄 (guit) ⑤喪失速度、砂防会館ホール

**三人姉妹** ①string quartet, folk instruments ensemble ②1979 ③作：チェーホフ、台本・演出：ふじたあさや ④1979.10.20、稲庭達、山田千波 (vn)、水山宗己 (va)、杉浦薫 (vc) ⑤三人姉妹、名演小劇場、名古屋

**フィガロの結婚** ①recorder, viola da gamba, guitar, harpsichord, piano, renaissance drum ②1980  
③作：ボーマルシェ、台本・演出：木村光一 ④1980.11.03 ⑤フィガロの結婚、名演小劇場、名古屋

**ある夜間中学の記録** ①guitar ②1981 ③台本・演出：ふじたあさや

**オモニ** ①mizidaiiko, tsubodaiko, rin, prepared piano ②1983 ③作：呉泰錫、演出：小田健也 ④1983.10.01-02、うりんこ楽団 ⑤劇団うりんこ土曜劇場企画=No.7、劇団うりんこ、名古屋

**地蔵ものがたり** ①mixed chorus, 2horn, 3clarinet, piano, angklung, rakka tsutsu, shinobue, narimono ②1997 ③台本：栗木英章 ④1997.06.21、アンサンブル・ドウ・ルナル：堤淳喜 (small-cl)、山川真喜子 (cl)、高橋晃子 (b-cl)、松井茂樹、吉田章 (hr)、戸島美喜夫、兼松千里、戸島勢津子、鶴飼直美、平岩和子、三浦恵美、岡本美智瑠、飯島多歌子、平川明良、富永美由紀、今村久子 (perc, etc.) ⑤音楽劇「地蔵物語」、天白文化小劇場、名古屋 ⑦林学との共作 (戸島は作曲、編曲、構成を担当)。

### 【即興演奏等】

**オブジェ・ソノールの展開** ②1962 ④1962.06.01 ⑤村松画廊、東京 ⑦サウンド・インスタレーション  
**オブジェ・ソノール** ②1964 ④1964.03.31 ⑤名古屋新音楽グループ第2回公演、日本楽器ビル4階スタジオ、名古屋 ⑦即興演奏

### おわりに

作品リストは、その作曲家を知る上で基本となる情報である。人口の多くない一部の国では、自国の作曲家の情報をできるだけ集約し、データベースとして構築している<sup>24</sup>。しかし本邦のように作曲家の数が多く、文化予算も少ない国では、一部の限られた作曲家を除いて、関係機関や研究者によって作曲家の情報が整理される機会に恵まれないのが現状である。戸島美喜夫の場合、本人が自作に関わる資料を丁寧に保存していたことにより、作品リストを作成することができた。しかし今回の調査

では、戸島の活動の中でも重要な劇付随音楽について、詳しく調べることができなかった。また2000年代に入ってからの確認できた作品数が少ないことから、この年代に書かれた作品の多くを見落とししている可能性は否定できない。しかしながら、今後の戸島作品研究の礎として、本稿が少しでも役に立つことができれば、筆者としては本望である。

本稿の執筆に際しては、戸島の教え子である作曲家の伊藤祐二氏と吉川和夫宮城教育大学名誉教授、作曲家の野村誠氏、また愛知県立芸術大学教授で戸島氏と交流があり、作品演奏の経験もあるピアニストの北住淳氏からは貴重なご助言をいただいた。そしてなによりも、戸島美喜夫の長女でヴァイオリニストの戸島さや野氏には、数度にわたり作曲家の自宅アトリエで資料探しをすごす許可を得て、また一緒に手伝ってもらった。さや野氏の多大なご理解とご協力が得られなかったら、本稿を仕上げることは到底叶わなかった。ここに深謝の意を表したい。

---

## 主な参考文献

### ○書籍

- 川崎弘二 2009 『日本の電子音楽 増補改訂版』 東京：愛育社  
 川崎弘二・松井茂(編) 2013 『日本の電子音楽 続 インタビュー編』 京都：engine books  
 高橋悠治 1981 『水牛楽団のできるまで』 東京：白水社  
 細川修平・片山杜秀(監修) 2008 『日本の作曲家』 東京：日外アソシエーツ

### ○雑誌、紀要等

- 戸島美喜夫 1973 「日曜作曲つれづれなるままに」『音楽芸術』第31巻第6号 東京：音楽之友社：45-45  
 戸島美喜夫 1984 「合唱曲「もどりうた」—作品ともとうた註—」 松阪大学『松阪大学紀要』第2巻第2号：33-55  
 戸島美喜夫 1989 「ピアノ作品「桑摘む娘」」 松阪大学『松阪大学紀要』第7巻第6号：43-54  
 戸島美喜夫 1990 「くろき翼ひろげ降りたつものたち」 松阪大学『松阪大学紀要』第8巻第8号：17-37  
 戸島美喜夫 1991 「いくさ三題」 松阪大学『松阪大学紀要』第9巻第9号：53-67  
 戸島美喜夫 2004 「業績」 松阪大学『松阪大学紀要』第22巻第1号：14-15

---

## 註

- 1963年4月より愛知県立昭和高等学校の教諭として赴任している。
- 《Saeta》および《強度のために》と題された作品を発表しているが、作品の詳細は不明である。
- 「民謡の素朴さや力強さが名古屋つ子(原文ママ)の私にも響いてきます。[...] 私自身の音楽言語で表現してみたいというのが、この作曲の狙いでもあります」(戸島美喜夫1967『第4回名古屋ヴォーカル・クランツ定期演奏会』公演プログラム冊子)
- ただし《アンヴァンシオン・ソノール》のうち1曲はマンドリン・オーケストラのために書かれたものなので、合計8曲ということになる。また1984年に書かれたマンドリン・オーケストラ作品もあるが、様式がいくつか異なっている。
- 「エコー・マシーン」と「フィードバック・エコー」は同じものと考えられ、戸島が曲によって呼び方を変えている可能性が高い。なお当時市場に出回っていた代表的なテープエコーはRollandの「RE-201 Space Echo」(1974発売)という機種であり、戸島作

- 品でエフェクトの操作を担当していた矢島正浩はこの機種を使用していた可能性が考えられる。
- 6 戸島は後年、このエコー・マシンのことを「演奏者の意思や何かを超えたところで鳴る音。もう一つの存在といえいいのかな。」と述べている。(川崎弘二・松井茂(編)2013『日本の電子音楽 続 インタビュー編』engine books:94)
  - 7 作・台本:水上勉、演出:木村光一。
  - 8 高橋悠治が中心となり1980年から1987年の間に発行された月刊誌。水牛編集委員会刊。2023年11月より、全号がインターネット上にPDFで公開されている。<https://suigyuu.com/dayori>
  - 9 フィリピンのバナナ農家が日米の資本に操作され、搾取されている様子を相関図的に描いたもの。(著者不明1980『水牛通信』第二巻第七号 水牛編集委員会:24-25)
  - 10 (川崎弘二・松井茂(編)2013『日本の電子音楽 続 インタビュー編』engine books:96-97)
  - 11 「『現代音楽』は密室作業であり『カゴの中』であった」と述べている。(戸島美喜夫1980『カゴの鳥がなく』『コンサート この時の唄』公演プログラム冊子)
  - 12 前掲書。
  - 13 マンドリン・オーケストラ、打楽器、合唱、フィードバックエコーのための《八月のアンティフォニー》では合唱が使われており、上記の「音響作品」にあたるものの、形態として合唱が中心には書かれていない。
  - 14 この作品は名古屋大学オーケストラのために書かれたものの、演奏者側の都合により演奏されなかったという。(吉川和夫1976『自由のための怠情、そして耳』『INVENTION SONORE CONCERT 戸島美喜夫作品展』公演プログラム冊子)
  - 15 インドの民族弦楽器。
  - 16 インド音楽との関わりは戸島が劇付随音楽に関わった時期と近く、この二つが戸島の音楽に対する考え方の方向性を大きく変えた可能性が高い。インド音楽との出会いについて戸島は次のように語っている。「[...]それまでに考えたり、やって来たいろいろなことが、自分の中から消えて行ってしまったわけ。自分のエゴや何かが。音楽というものはただ流れて行くものなんだというように感じるようになったのかな。」(川崎弘二・松井茂(編)2013『日本の電子音楽 続 インタビュー編』engine books:96)
  - 17 雑誌の付録として発行された。(『音楽芸術』第33巻第8号、音楽之友社、1975)
  - 18 (1980『水牛通信』第二巻第十一号 水牛編集委員会:2-12)
  - 19 収録曲は《鳥のうた(カルタニア民謡)》《小変奏曲「機織りうた」》《ヴェトナムの子守唄》《柿むき(愛知県北設楽地方民謡)》《桑摘む娘》《間奏曲-V.ハラヘ-》《冬のロンド》。
  - 20 なお、「グループ・音楽」の即興演奏を収録したCDが1996年にリリースされており(Hear Sound Art Library, HEAR-002)、ここで戸島はチェリストとしても参加している。戸島を含む彼らがどのような即興音楽を志向していたかがわかる録音記録である。ただし戸島個人の名前がクレジットされた作品は収録されていない。
  - 21 中でも最も派生数が多いものは、7作品存在する《柿むき》である。元は民謡だが、純器楽曲として書かれているものもある。
  - 22 筆者による野村への聴き取り。
  - 23 作曲者本人が書いたものでも、明らかに間違いと思われるケースもある。
  - 24 たとえばニュージーランドのSOUNZ(<https://sounz.org.nz/>)などが挙げられる。

## 執筆者

山本 裕之(音楽学部作曲専攻作曲コース 教授)